

沼津西ロータリークラブ



2023～2024 年度・クラブテーマ

「未来につながる行動をとろう」

会長 重光 純 / 幹事 颯川ゆう子

第 1478 回 第 33 巻 16 号 2023 年 11 月 30 日

■■本日のプログラム■■

グローバル補助金について
RI2620 地区ロータリー財団委員会

■12月のプログラム■

1479 回 12:30 12 月 7 日(木)	アクアガーデン迎賓館 外部卓話 沼津市まちづくり政策課
1480 回 12:30 12 月 14 日(木)	アクアガーデン迎賓館 クラブフォーラム 会員増強委員会 理事会 ⑦
1481 回 18:30 12 月 21 日(木)	フランス料理 ヌーヴォサンス クリスマス例会 クラブ管理運営委員会 夜間例会 移動例会
12 月 28 日(木)	裁量休会

例会場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37

アクアガーデン迎賓館沼津

TEL 055-920-5200

事務局 久松会計事務所内

TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600

E-mail: numawestrc@gmail.com

例会日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 山本 哲之 / 編集者 下田 朗弘

会長挨拶

● 会長 重光 純 ●

本日は、地区財団委員長の大澤能孝様よりロータリー財団についての卓話を頂くことになっております。

大澤様、ご指導よろしくお願いたします。

さて、前回の当会場での例会から随分と間が空いたような気がいたしますが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。私は先週末から胃腸の調子が悪く、沼津 4RC 合同ゴルフコンペでは何とかプレーできたものの、残念ながら表彰式は欠席させていただきました。ご参加いただいた皆様には申し訳ございませんでした。

話は変わりますが、先日、小学 1 年生の息子から、人間は死んだらどうなるのかを尋ねられたことから、自分の思うところを説明しましたが、息子にとっては納得のゆく内容ではなかったようです。

誰もが長く生きたいと思うのは当然でしょうが、始まりがある以上終わりがあがるのは避けられないことです。例えば、太陽にも寿命があり、およそ 100 億年とされています。太陽系が生まれたのは 46 億年前ということですので、残り 50 億年ほどは寿命があるようです。

50 億年後に太陽がどうなるかという、燃料となる水素が無くなることで力のバランスが崩れて太陽は膨張し続けて、地球は勿論火星の軌道あたりまでを飲み込む赤色巨星になり、最終的には放出されたガスは惑星状星雲として観測され、その中心には白色矮星と呼ばれる天体が残るといことです。

そんな事態になるころには地球は到底生物が生き残れる状態ではないのでしょうか、人類は絶滅してしまっているのか、それとも別の惑星に移住しているのか、まったく予想できません。ただ、現代に生きる私たちとしては、少しでも長く人類が地球で暮らしていけるよう、環境に配慮した生活をするしかないと思います。

出席報告 会員数 25 名			
例会	会員数	出席数	出席率
1478 回	24 名	22 名	91.67%

◎ ゲスト

- ロータリー財団委員会 補助金小委員会
大澤能孝様 (富士宮 RC)

◎ ビジター なし

◎ 欠席者(2名) 本村文一、下原満知子

◎ 他クラブへの出席者

- 重光 純、颯川ゆう子(11/18 会長幹事会)
- 成田みちよ(11/18 米山記念奨学面接官研修)
- 成田みちよ、久松 但(11/25 Pre-Pets)

◎スマイル報告

- 1.重光 純、2.宮島賢次：大澤様、本日は、宜しくお願い致します。
- 3.名古屋良輔、4.久松 但：家族の誕生日のお祝いありがとうございます。
- 5.芹澤貞治、6.芹澤和子、7.山本哲之：入会記念日のお祝いありがとうございます。
- 8.山本哲之：母の葬儀の際は、お心遣いを、ありがとうございました。
- 9.山本宜司：本日、都合により早退させていただきます。

幹事報告

1.他クラブの例会変更

ございません。

2.報告、連絡事項

- ①12/21 のクリスマス例会の出欠席をご記入ください。
- ②2025-2026 年度 第2 グループガバナー補佐の選出は裾野 RC に決定しました。

臨時理事会報告

1.報告事項 なし

2.協議事項

- ①12/21 (木) 開催のクリスマス家族例会の件
クラブ管理運営委員長 成田みちよ君
(成田) 添付資料を説明 → 承認
- ②令和 6/1/11 の新年会の件
クラブ管理運営委員長 成田みちよ君
(成田) 添付資料を説明 → 継続審議

グローバル補助金について

ロータリー財団委員会

補助金小委員会

大澤 能孝 様

公益財団法人ロータリー日本財団は、国際ロータリーのロータリー財団の協力財団です。理事長は茶道家の千玄室氏です。平成22年12月に内閣府より公益財団法人として認定を受け、13年目を迎えます。100年の歴史を持つ国際ロータリーのロータリー財団と「世界でよいことをしよう」という理念を同じくし、ロータリーの奉仕の理念に基づき、国際ロータリー財団に協力して公益事業への支援を行っています。日本財団は、持続可能な変化と成果をもたらす人材を育成するため、奨学金事業に注力しており



ます。昨今の世界情勢において、平和の大切さと平和構築のための人材の重要性が実感されています。その中で、当財団が果たすことが出来る役割は決して少なくないと考えています。

このため、日本財団の公益目的事業の主な趣旨は

- (1)個人が海外留学するための奨学金およびロータリー平和フェローシップの付与
- (2)非営利財団法人である国際ロータリーのロータリー財団の活動を支援するための寄付金の提供であります。

国際財団は日本全国および海外に約36,000あるロータリークラブと140万人を超える会員が、発展途上国にきれいな水をもたらし、平和活動に携わる人材を育成するなど、様々な形で世界の平和と人々の生活をよりよくするための活動を支援しています。このような活動を支えるために、すでに900名以上の学友が各国政府や国際機関などに勤務しており、国際RC規模では1947年からの70年間で国際親善奨学金制度による奨学生は40,000人(日本人は8,000人)を越えているのです。

グテレス国連事務総長のもとで活動し、まさに世界が国際協力のもとに解決していかなくてはならないテーマのある今、最前線で活動している財団の学友に中満泉(なかもつ・いずみ)氏がいます。彼女は38年前に神奈川県厚木ロータリークラブから派遣された国際親善奨学生です。中満泉氏は国連の軍縮部門トップである軍縮担当上級代表(事務次長)に奉職しています。事務次長は、事務総長、副事務総長に次ぐ幹部ポストです。このことを我々ロータリアンは知っておく必要があると思います。自分たちが支援してきた奨学生が世界で活躍し、その行動により世界平和に貢献していることを共有しましょう。

ポリオ撲滅活動においても、予防接種活動を通じて発症数を世界で99.9%減少させてきました。皆さまからのご寄付は、こうした活動に大切に活用されています。

そして地区内のクラブから寄せられた財団への寄付金(年次基金、恒久基金)の内、年次基金への寄付は「必要な時にプロジェクトの資金が確保できるように」ということで、すべて3年間運用され運用益と共に国際財団活動資金(WF)と地区財団活動資金(DDF)に50%ずつ按分されます。恒久基金への寄付は将来にわたって資金運用され、元金には手を付けられません。RIではこの恒久基金を2025年までに10億ドルに成長させることを目標にしています。この地区財団活動資金(DDF)を自分たちの地域に貢献するプロジェクトに活用して、より大きな活動力を発揮して参りましょう。